

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第1回上尾市環境審議会	
開 催 日 時	令和7年6月25日(金) 14時00分～15時40分	
開 催 場 所	上尾市役所議会棟4階 全員協議会室	
議長(委員長・会長)氏名	磐田 朋子(会長)	
出席者(委員)氏名	小川 早枝子、島津 秋男、平田 通子、海老原 直矢、栗原 邦夫、 松本 弘子、新井 力、生井 圭子、相良 純子、長谷川 繁、 鈴木 敏資、安田 信一 以上13名	
欠席者(委員)氏名	鈴木 礼三、市村 英一	
事務局(庶務担当)	【上尾市】 環境経済部 藤田部長、田中次長 環境政策課 大竹課長、櫻井裕ゼロカーボン推進室長、永島主査、 大橋主査、中村主任、塩田主任 【株式会社 ナレッジグリーン】 田中 和幸、水野 徹哉	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 開会 (2) 会長・副会長の選出 (3) 諮問 (4) 議題 第3次上尾市環境基本計画【改定版】骨子案について (5) その他 第3次上尾市環境基本計画改定スケジュール(令和7年度)について (6) 閉会	原則案のとおり進めるが、当審議会の意見をもとに事務局側で検討・調整・変更
議 事 の 経 過		傍聴者数 1 名
会 議 資 料		(1) 令和7年度第1回上尾市環境審議会次第 (2) 資料1 第3次上尾市環境基本計画(改定版)に係る基本的な考え方について(案) (3) 資料2 第3次上尾市環境基本計画【改定版】骨子案 (4) その他 第3次上尾市環境基本計画改定スケジュール(令和7年度) (5) 上尾市環境審議会 委員名簿(第16期) 【配布】 (6) 令和7年度第1回上尾市環境審議会 席次表
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和7年7月7日 議長(委員長・会長)の署名 <u>磐田 朋子</u> 議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)		

議 事 の 経 過

議 事 第 3 次上尾市環境基本計画【改定版】骨子案について

→原則案のとおり進めるが、当審議会の意見をもとに事務局側で検討・調整・変更

《議事要旨》

- 事務局より資料 1、2 により説明。
- 審議の結果を踏まえ、素案としてとりまとめて、次回の審議会にてお諮りする。

《質疑応答》

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
平田委員	現行計画から大きく変更となったところはあるか。
事務局	個別ではそれほどないが、体系を見直し分かりやすい構成とした。また、地域気候変動適応計画を包含して策定することについても大きな変更点として挙げられる。
海老原委員	成果指標に 2030 年度の目標値を定めているが、これまでは目標値を定めていなかったものが多かったと思うが。
事務局	成果指標については、最終目標値を定めていた指標もあるが、現在変更をかけていることから、新たに目標値を示した指標も存在する。
海老原委員	今回は改定なので、現状の施策を踏まえ目標値を変える部分も出てくるかと思われる。今後の審議のなかで、成果指標の根拠を教えていただきたい。 あと、(資料 2 の) 52 ページの脱炭素の目標値の書き方が分かりづらい。中間目標が 2030 年度までの目標値で、長期目標が 2050 年度までの目標値ということだと思うが、分かりやすくまとめていただきたい。 最後に、(資料 2 の) 22 ページの望ましい環境像については、横文字が多いと市民の理解に差が出てきてしまうところがあると思うので、必ずしも国の用語にイコールではなく、上尾市の定義として進めていってもいいと思う。
事務局	1 点目の指標については、変更した点などについては改めて表等にしてお示ししたいと思う。 2 点目については、修正し全体的に見直しを図りたい。 3 点目については、この前の政策推進会議においても、カタカナはいかななものかのご意見が出たので、下に注釈としていれていくのか、資料編としてまとめるか、示し方を工夫していきたい。もし、何かアイデアがあれば頂戴したい。
磐田会長	最初の指摘にあった成果指標の目標値について、変わったもの変わっていないものについては、後で構わないので、今回の審議会中に分かる範囲でお願いしたい。
鈴木委員	望ましい環境像について、どうやってこれから市民の方に納得してもらえるかと考えると、若い人向きの表現だと思われるので、日本語で書いた後にカッコ書きで専門用語を加えるなど、一工夫したほうがよいと思う。

事務局	5月10日に開催した市民ワークショップでも同じような意見が出たので、工夫したいと思う。
安田委員	今回の改定の考え方は、前回よりシンプルになっており、その点では評価したい。今回の計画では、新しい取り組みがあるのかなと感じたが、そういったものが上尾市において本当に取組をした方がよいのか、その辺を今後議論する必要があるのではないかな。従来の延長線のところは、そんなに問題はないと個人的には思う。ウェルビーイングとは、人間の幸福度とかそういう捉え方をしている国もあるが、それを環境で切ったときに、どう結び付けるのかというのが、ちょっと難しいのかなと。ウェルビーイングは、今年環境省の計画の中で出てきたもので、どこも戸惑っているのかなと感じているので、この辺を少し今後議論したほうがよいと思う。 2点目は、水利・水辺・川の環境を取り入れてきた。水辺を再生するということは大事なことだと思うが、今までやっていない取組で予算が付かなかった場合、絵に描いた餅になってしまうのではないかな。
事務局	水辺関係については、今、かわまちづくりの協議会も立ち上がっており、いろいろなあり方などを検討していると聞いているので、ご意見を頂きながら計画に反映していきたいと考えている。
鈴木委員	今、市が一番力をいれているのは、脱炭素施策だと思うので、(資料1の)3ページに記載されている体系案では、環境目標の4「脱炭素な暮らしを営むまち」を一番先頭に持ってきてはどうか。
事務局	順番については、事務局としては、力を入れている順という意識はなかった。既に環境基本計画が進行しており、その流れのイメージを大きく変えることなく中身を変えていっている状況なので、この順番になっている。
新井委員	改定版の体系は非常に見やすくなったが、これを評価するときは成果指標と施策の両方で評価することになるのか。
事務局	現在の計画も進行管理を各年度実施しており、実行施策についても各課に取り組んだ内容を記載してもらい、それに加え業務指標という指標で毎年委員の皆様を確認してもらっている。今回の改定で、計画のつくりを大きく変えるつもりはないので、今までと同じように委員の皆様には進行管理をしていただきたいと考えている。
安田委員	(資料1の)3ページ、施策の「③緑地の保全」と「④緑地の保全・創出」は一本化できないのか。 また、環境目標2の成果指標で「光化学オキシダントを除く」とあるが、除く理由は何なのか。
事務局	1点目については、誤植である。正しくは、「農地の保全・活用」である。 2点目の光化学オキシダントを除いている理由は、日本全国どの地域であっても光化学オキシダントの長期目標値を達成できるところはないので、光化学オキシダントを除かないと指標として成立しないためである。
安田委員	公害を減らす努力をしないということか。光化学オキシダントの原因となるものは何か。
磐田会長	この点については、他の自治体でどういった取り扱いをしているのかを含めた検討の結果だと思うが、如何か。
事務局	光化学オキシダントについては、短期的な目標と長期的な目標の2種類があるが、長期的な目標がほぼ達成不可能な状況になっている。なぜかと

	いうと、日本国内の努力だけでなく、海外から飛散してくる物質がどうしても処理しきれないというところがあり、これが長期的な目標が未達成となる理由である。他の自治体では、環境基準で定められていることは把握しており測定もしているが、どうやっても無理だと判断し、計画上の目標から除いている自治体が増えつつあるのが実情である。自分たちで管理してなんとかできる目標ではないため、感覚として半分くらいの自治体が目標値から除いている。
海老原委員	外部からの影響というのが、どの程度なのか、今後お示しいただきたい。また、目標値についても 100%にこだわることなく、現実的な目標値を設定する手法もあるのではないかな。 次に、(資料 2 の) 52 ページに記載されている脱炭素の目標についてだが、1 人当たりの CO2 排出量を 2.8t-CO2 で出しているが、市の人口推計は、(資料 2 の) 5 ページに 221,466 人と記載されており、単純に計算すると中期目標と合わなくなる。中期目標か、人口 1 人あたりの排出量かどちらかを揃える必要がある。
事務局	次回までに人口の確認をして、目標値を提示したいと思う。
磐田会長	先程もありましたが、(資料 2 の) 52 ページの表自体も中期・長期がまざっていて見にくいということも含めて、見直しをお願いしたいと思う。
事務局	先程お話があった現行計画から変更となっている成果指標についてですが、(資料 2 の) 32 ページの環境目標 1 の成果指標については、3 つの成果指標が記載されており、1 番下の指標が見え消しとなっている。これが、住民アンケートによる指標である。それ以外の 2 つの指標となっている「緑地面積」と「都市公園面積」については、現行計画で、成果指標の一段下に当たる業務指標として位置付けられていたものであり、目標値については業務指標の時のものを継続している。今回、現状を把握したうえで目標値の見直しを図るべきではないかのご意見があったので、目標値の設定については、今後各課と調整させていただければと考えております。ただし、こちらの「緑地面積」と「都市公園面積」については、緑の基本計画の目標値を採用しているのので、整合を図る上でもこの目標値については妥当と考えている。 (資料 2 の) 41 ページが環境目標 2 の成果指標のページとなる。こちらでも「都市・生活環境の住民満足度」というのが見え消しになっているが、現行計画では、この 1 つだけの成果指標となっていた。 今回の「道路騒音・振動にかかる要請限度の達成率」や「ダイオキシン類の環境基準適合率」については、現行計画で業務指標としていたものを成果指標として位置づけした。大気と水質の基準については、新たに設定した指標となる。こちらの目標値についても、もともとあった指標については目標値の変更は行っていない。新たに追加した指標については、事務局で適正だと思われる数値を設定させていただいているが、大気の指標については、先ほどご指摘もあったので、そもそも指標として採用するかどうかや目標値の根拠については、次回の審議会では説明ができるよう考えている。 次の (資料 2 の) 48 ページの環境目標 3 の成果指標については現状から変更はない。こちらの指標の目標値についても「一般廃棄物処理基本計画」の目標値を使用しているのので、「一般廃棄物処理基本計画」の目標値が変更されなければ、このままの目標値としたいと考えている。 続いて、(資料 2 の) 52 ページの環境目標 4 の成果指標については、ゼ

	ロカーボン推進室からも話があったが、精査したうえで次回お示しできればと思う。 最後に、(資料2の) 64 ページの環境目標5の成果指標については、現行計画から変更はしておらず、そのまま残している指標である。目標値については、2024 年度時点で目標値を達成できていないの、2030 年度の目標値についても概ね妥当ではないかと考えているが、素案の段階でも目標値について皆さんからご意見いただけるので、ご意見があればよろしく願いたい。
海老原委員	(資料2の) 52 ページについてだが、53 ページとも値が一致しない。
事務局	53 ページを作った後に、国と県の数値が遡って変更になってしまった。
海老原委員	そのことをどこかに記載したほうがよい。
事務局	承知した。
海老原委員	(資料2の) 64 ページの目標値についてだが、環境基本計画を改定する趣旨としては、環境活動に参加したいと思う人を増やしていくものだと思う。「環境活動に参加したいと思う人の割合」の目標値が5%というのは、如何なものか。もう少し積み上げてもいいのではないか。改定の目的にも沿った形でご検討いただければと思う。
事務局	承知した。
平田委員	アンケート結果については、その人の感覚というのもあると思うが、ペットボトルをお店の回収ボックスに持って行くことやマイボトルを持ち歩くなど何らかの環境活動をされている方は増えていると思う。「環境活動に参加したい」ではなく、簡単なことでも「実際に取り組んでいる」人を3分の1くらいにならないと地球温暖化をストップさせることはできないのかなと思う。 上尾市には、せっかく給水機があるのに、あまり公表していない。市民に使ってもらい、上尾市も努力しているというアピールもできるので、給水機の設置場所を各地に増やしていただきたい。先日、町田市に視察に行った際も、市内のあちこちに給水ポイントが設置されて、地図に給水ポイントが記載されている地図を配布し、市民に協力を呼び掛けていた。 また、ごみの減量についてだが、リサイクル率が高まらないというのはなぜなのか。
事務局	リサイクル率が高まらない理由については、西貝塚環境センターに搬入されたものしか把握できないためである。スーパーによる回収などを含めれば、全体のリサイクル率は上がっていると分析している。どれだけ、スーパーに流れているのか知るすべがないので、西貝塚環境センターの数値だけで見るとリサイクル率が上がっていないように見える。
平田委員	地域リサイクルもあるが、高齢化などで継続できなくなっているということもあるので、紙や衣類の市の回収の強化について、ゼロカーボンを進めていくためにも、この計画に記載していただきたい。
事務局	市役所の1階から7階まで1か所ずつ給水機を設置している。それによってペットボトルの削減をしようという意図でやっており、平田委員からは市内の各公共施設にも広げるべきではないかとご意見いただいた。それについては、設置できる場所が限られていることとか、クーリングシェルターとの兼ね合いもあるので、今ここで増やしますとか増やさないという回答はできない。

	ごみのリサイクル率については、先ほどお話ししたとおり、実際の資源化率は増えていると分析している。私どもは、西貝塚環境センターに搬入された分量しか把握していないため、横ばいに見えるが実際にはスーパーなどでの店頭回収が広がっているのも、今は増えていると分析している。 最後の資源ごみの回収については、廃棄物減量の審議会があり、令和15年度に供用開始予定の新しいごみ処理施設が建設予定となっているので、それに向けごみ分別については、特に令和7年度に力をいれて、これから審議していく予定である。その過程のなかで、回収業者と調整を図りながら、資源ごみの回収の回数を増やすことについても、今後時間をかけて審議していく。 審議していくということを計画に書くことはできないが、そういった意識をもって計画を策定していく。
生井委員	今、話があったリサイクルのすそ野が広がっているということの補足だが、若い層は、スーパーなどでポイントが頂けるので、わざわざスーパーに持って行っているということもある。ちょっと見えづらいが、かなり意識は高くなっていると思うので、なかなか市に持ってきてというのも難しい背景がある。
事務局	そういった広がりを見せているのはいいことだと思う。
海老原委員	「環境活動に参加したいと思う人の割合」は、どのアンケートで測っているのか。
事務局	計画改定の中間報告を作成する際に実施したアンケートである。
海老原委員	このような指標を100%にしていくといったことを目標にしたほうが、上尾市がこういった活動に取り組んでいるというアピールになるのではないかな。個人的には、市民に対して啓発するといった意味では凄くきれいだと思う。今のリサイクルの話を聞いていると、環境活動とは何ぞやというのを、もう少し丁寧に定義してあげれば本当は5%ではないと思う。アンケートの取り方も含めて検討していただきたい。
事務局	割合の取り方については、「地域の活動に参加したい人」を選択した人の割合である。もう少しパーセンテージが上がるような設問の設定もできるかと思うので、その点も踏まえて次回ご提示できればと思う。
海老原委員	自治会活動といったよう地域活動と密接に関係していると思われたもので、環境活動そのものが嫌なわけではないと思うので、検討してもらえればと思う。
事務局	承知した。
平田委員	「緑と水が日々の暮らしに寄りそうまち」というのは非常にいいなと思うが、子供たちが水遊びできる場所が丸山公園ぐらいしかない。せっかくなら、子どもたちが遊べる公園の中に水辺環境を整えたり、街の中で休憩ができる公園など、この計画を柱として市全体として話し合っていただきたい。
磐田会長	「緑と水が」と書いてあるのに、成果指標に水のことが入っていないというのもギャップを感じさせる要因かなと思う。
事務局	東は上平公園、西は丸山公園の中に、水辺で遊べるような公園は存在している。昔のような小川のせせらぎのようなものが自然に生まれることはないのも、どのように紐づけていくか、計画に入れられるかを含めて考えていきたい。

磐田会長	都市整備部のほうで、水辺空間についてどう考えているのか、意見合わせをしていただければと思う。
事務局	他の部署とも相談しながら進めさせていただく。
長谷川委員	骨子案の 41 ページで「環境目標 2 健やかで安全、快適に暮らせるまち」とあるが、いろいろ事業所とかに立ち入りされていると思うが、上尾的な傾向で行くと、水質汚染よりも野焼きが気になっている。事業所で焼却炉みたいなものを作り、そこで燃やしているのが見受けられる。できれば、そういったところに立ち入っていただき、野焼きを無くしてもらえれば、「健やかで安全、快適に暮らせるまち」につながると思う。前にあった事例では、野焼き、焼却炉で燃やしたものが風で延焼してしまい、敷地内ではあるが飛び火してしまった。上尾は野焼きが多いなという印象である。できれば、立ち入りしていただき、焼却炉を撤去させるとかすると、よりいいイメージが出るんじゃないかなと思います。
事務局	市では、生活環境課が担当しており、野焼きパトロールを実施している。これは、農家の方がやっている野焼きで、後は通報があれば市で対応している。事業所に置いてある焼却炉については、把握していない部分もあるかもしれないので、生活環境課と調整していく。
鈴木委員	(資料 2 の) 33 ページに、「環境にやさしい石鹼や洗剤の仕様に努めます。」と書いてあるが、環境にやさしい石鹼や洗剤とは何なのか。
事務局	生活環境課の所管となるが、界面活性剤が入っていないものである。その辺をなるべく推奨していく話だと聞いている。
生井委員	自然に近いものは、自然に帰る可能性が高い。巷にある洗剤は自然に帰らない。自然に帰る力があるものが環境に優しいという捉え方になっている。学校向けの石鹼も 20 年くらい前から、そういうものに替えてくださいと言っている団体があるが、広がっていない。
事務局	所管課にも頂いたご意見を伝える。
磐田会長	(資料 1 の) 3 ページ、環境分野の 3 の成果指標 1 人 1 日当たりのごみ排出量については、家庭部門に限定している理由はあるか。
事務局	一般廃棄物処理基本計画の中には、事業系一般廃棄物についても含まれている。計画策定時に、なぜ家庭ごみに限定したかというのは、今お答えできないが、場合によっては事業系も含めた形の指標に変えてもいいのかなとは思っているので、検討させていただきたい。
磐田会長	適応に関する指標が成果指標に入っていないが、今後入る可能性はあるか。
事務局	地域気候変動適応計画を包含する形になるので、こういった指標が入れられるか検討させていただきたい。
海老原委員	2 月の審議会でも出ていたが、野焼きパトロールの件は、野焼きパトロールの回数だと市が施策をやった回数が減ってしまうということだが、個別の通報の件数を全体として減らしていくという指標にしたほうがいいんじゃないかと指摘があった。そっちのほうが全体としての件数が減っていると捉えられるので、検討してもらいたい。
事務局	確認し、検討する。
生井委員	(資料 1 の) 3 ページ、公園の整備、身近な緑の創出とあるが、最近、桜も寿命があるということで伐られている。完全に伐られたものはしょうがないが、伐った切り口から弱くなっているというのが見受けられ、どんどん弱くなっていっている。その辺は大丈夫なのか。

事務局	桜そのものを所管している課はないが、公園の中の桜はみどり公園課が管理している。そこは、専門家がやっているので樹の寿命を減らすようなやり方はしていないと思う。民地にある桜については、市は関与できない。また、クビアカツヤカミキリの被害も多いと聞いている。
栞原委員	文化センターの桜の木の剪定を見ていると業者は、切り口に薬のようなものを塗っているのは見たことがある。
事務局	公共施設にあるものは、同じようにやっていると思う。民地にあるものについて指導できるかということ、それは難しい。
生井委員	神社は。
事務局	私有地、もしくは檀家のものである。

その他の内容について

① 第3次上尾市環境基本計画改定スケジュール（令和7年度）について

→原則案の通り了承。

以上